

第3回セミナーを6月25日(土) 13:30~15:30に開催しました。

会場：愛知文教大学 201教室

テーマ：不登校児童生徒の学びをどう保障するか

～学校外の学びの場の現状をふまえながら～

講師：学び合う学び研究所フェロー 竹中 烈 先生

公設民営化が理想的でした。

今、自分が担当する教室にも不登校の児童がいます。そうした子どもたちに、学校とフリースクールなどの機関と連携しながら、子どもの居場所を見つけていくことの大切さを感じました。

竹中先生のお話も、おんせんキャンパスの取り組みも、大変興味深くためになりました。

何よりも、グループでお話しさせていただいたことが、今後に役立つように思え、今日は参加させていただき、とても感謝しております。ありがとうございました。

NPOの実例を大変興味深く聴かせていただきました。本校にも、学校とフリースクールを併用している子どもがいますが、いわゆる受け皿的におもりをしてもらうような施設ではなく、今日、ご紹介いただいた、おんせんキャンパスのような様々な体験が可能なものであれば、子どもはもとより、保護者や教職員にとっても、とてもありがたいと思います。

ありがとうございました。

今回のセミナーを通して、一番印象に残ったことは「不登校の要因は様々で、なかでも無気力、不安が一番多い」ということです。また、「無気力・不安というもの、原因ではなく結果ではないか」という点に、私自身の経験から非常に共感しました。

私は、全日制の高校1年生の時に不登校になり、通信制高校に3年間通い、高校を卒業しました。不登校になった理由は、正直、今でもよく分かりません。新入学早々、5月から継続的に体調不良になり、学校を休みがちにはなったものの、クラスに話せる人はでき、学校生活に問題はありませんでした。しかし、今から思えば、体調不良というのもある種「拒絶反応」だったのでは、と思います。現在教員を目指すものとして、あの時の自分に教員としての立場から、どんな声を掛けられるだろうと考えるきっかけになりました。

そして、現段階では「不登校生徒支援」となっているものが、学びの多様化として確立され、浸透していくのが理想ではないかと感じました。

貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

豊富な資料と丁寧な説明で、不登校児童生徒の学びの保障について考える機会を与えていただいた。

教育支援センター、フリースクール、特例校など、学校になじめない子どもたちが学ぶことのできるような様々な支援形態があり、不登校になった子どもたちが学ぶことができることはよいことである。そのつながりが機能するか、不登校になった子どもにとって、少しでも自己肯定感が得られる学びにつなげられるようにすることも課題と思われる。

NPO法人カタリバの池田先生の話も大変新鮮で参考になった。

全体を通して大変に工夫されたセミナーであり、専門家の知見に触れることは大いに勉強になることを再認識した次第である。竹中先生はじめ関係の皆様ありがとうございました。

今日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは「教育支援センターを NPO KATARIBA が行ってみえる組織構成と実際に運営している内容」です。

不登校の実態をわかりやすく説明していただくと同時に、現実を見つめる機会を設定していただけたことはとても良かった。貴重なデータをみながら、いろいろ考えさせられた時間でした。

また、雲南市の教育支援センターとのネットを活用した講義は、時代の変化を感じさせてくれました。また、その活動内容もとても興味関心を持つことができました。

不登校児童生徒の居場所を確保し、その子の興味関心を広めることができる環境作りは、今後日本の各地で必要になると感じました。教員あがりの人ばかりの組織ではなく、KATARIBA のような組織が重要になってくるように感じました。

身近な方の話もとても意義ある者ですが、今日のように、普段接することがない方の話を聞くことも大切なことだと実感しました。

とても、貴重な時間を過ごすことができました。

今日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは「これからは、これまでにない発想での不登校対策が必要である」です。

これまでにない発想での不登校対策が必要であると、認識を新たにしました。

一つには、不登校生徒実態調査の中で、小中学生とも行きづらいつ感じたまっかけの大きな要素に「先生と合わない」があったことです。これほど明確に示された資料は初めて見ました。教師に起因するケースが多いとの認識はもちろん持っていましたが、では、どう解決するかと言っても、正直なところ面と向かって当該の教師には言えずじまいで避けて通ってきた覚えがあります。今後は、この現状をしっかりと認識して対策に当たる必要を強く感じました。

二つには、雲南市の取り組みです。公設民営により正に理想的に上手く運営されているケースがとても新鮮でした。地域の人材を使って様々な企画や取り組みを通して当該児童生徒の支援に徹底されていること、行政と文字通りの連携が図られていること、そして、15歳ではなく20歳まで受け入れて社会的自立をめざしていること。実に新鮮で素晴らしかったです。

また、遠く離れた雲南市の先生と直接話をお聞きすることができることは、時代は進んでいるなあ、と思いました。コロナも多少は役に立っているのかなと思いました。

ありがとうございました。よい学びができました。

今日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは「不登校や長期欠席者に対する正しい理解が社会的に行われて、本人もご家庭も生きやすくすること。KATARIBA さんの存在と可能性、期待感」です。

同じグループの方が教員ではない方だったので、不登校に対する理解が自分の視点とは異なっていて、大変有意義でした。やはり異なる立場の考えを知れるのは学びにつながります。それを通して、自分も含めて、不登校を正しく理解していき、社会に広がることが、困難を抱えている子供や家族を支えることになると強く感じました。

最近では、不登校支援も広がりつつあります。学びに向かう力が溜まっていれば、様々な対策も効力を発揮しますが、そこに至るまでのエネルギーを失っている児童生徒への働きかけや、家族への支援に難しさを感じています。理想を言えば、学校教育そのものにおいて、個に

応じたスピードや方法で学んでいく、本当の意味での個別最適な学びを確立したいです。そうすれば不登校になる子供が減ると思うから。しかし、現実的にはなかなか難しい。そんな中で、雲南市教育委員会と KATARIBA さんの取り組みは大変興味深く、希望が持てる報告でした。全国に広がる可能性や広がってほしい夢が持てましたし、KATARIBA さんの努力と教育委員会の柔軟性に、未来を感じました。これから先は、一地域ではなくオンラインで全国をつなぐことも多くなって、一人でも多くの子供と家族が笑顔になってくれることを願っています。不登校家族からの相談を受け、悩むことの多い日々ですが、希望も持てました。竹中先生、ありがとうございました。

今日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは「学び合う学び」です。

竹中先生ありがとうございます。もっと早く専門家の竹中先生にご協力いただき、いろいろとお尋ねしていればと思いました。

副島元教育長等、勝手に自分が師と仰ぐすばらしい先生方のおかげで、小牧では救われている子どもや保護者がたくさんいます。

主体的にしか学ばない、協同的にしか学ばない、どの子もわかろう・できるようになろうと学ぶ子どもの事実ばかりです。子どもだけをみていると不登校なんて想像できません。事故として不登校になる子どもや大人？がいる事実も目の当たりにしています。竹中先生からお話があったように、すべての学びを保障し、すべての人の希望の光を灯すこれだけのシステムが整いつつあります。

自分の狭い経験と学んだ知識でしか言えませんが、幼児期と義務教育期は、大人の問題だと思っています。子どもが犠牲にならないように、竹中先生を中心に、小牧市の成果がさらに広まり、学び合う学び研究所がさらなる発展することを強く願っています。

本日、初めてご参加なされた？方々に女性が多かったのは、竹中先生のおかげですね。これからもどうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

今日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは「不登校生徒との接し方」です。

不登校生徒の対応は本当に人それぞれで違う対応を求められます。その1人1人にどう向き合えばいいのか、いつも悩んでいます。今日のセミナーを聞いて、学校復帰ではなく社会的自立のためにどうすればよいか、どのような機関があるのか、そしてその機関とどのように連携をとればいいのかを知ることが大切だと思いました。その子その子の現状段階を把握し、親との連携することで、今どのような支援が必要なのか考えていきたいと思いました。本校にも別室登校用の部屋がありますが、基本自習の体制になっています。市内には適応指導教室もあるので、そこがどのようなアプローチをしているのか、教えていただこうと思います。そして、それを学校にいる別室登校の生徒にも生かせることがあれば、同じ方向を向いて支援ができると思いました。

今日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは「多様化する学校以外での居場所をいかにして、関係機関と連携しながら進めて行くか。」です。

不登校児童生徒の現状や支援・居場所など、学校と教育支援センター等の連携の重要性を改めて考えさせられました。学校以外での学びの場や機会の選択ができることは、その子に合った組み合わせが可能になり、一歩前に進むきっかけになるかと思っています。メリットも多い中、

それでも、やっぱり行きづらさを感じる子どもたちに対しては、どのようなことを考えたらいいのか。それぞれに事情も違うので正解は一つではないとしても、すべての子どもたちが笑顔で毎日を過ごすことができるにはどうしたらいいのかを思うと、何が必要なのか難しい問題です。

雲南市の教育支援センターのように、地域団体や公的な機関が、柔軟な考えとスピード感を持って連携できれば、支援の範囲も内容も深まるのかもしれませんが。子どもたちを取り巻く環境や背景など、子どもたち自身ではどうにもできないことも多く、関係機関が連携したり、地域の人が寄り添ったりしてあげるなど、小さなことからできることがあるのかもしれませんが。いずれにしても、とても難しい問題だと思いました。

このようなセミナーに参加できて、気づきや学びがあったことを嬉しく思います。

貴重な機会をありがとうございました。学校現場の忙しさは理解できますが、先生方がこのようなセミナーに参加していただき、情報の共有や学び合う学びを肌で感じてほしいと思いました。

今日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは「不登校対策について、学校だけでなくフリースクールなどの外部機関とも連携しながら生徒の学びを保証することが大切だ」と思いました。

今の学校に対してどうしても「適応できない生徒」がいることを認識して対応していくことが大切だと思いました。学校では、「学び合う学び」などで生徒の学びを保証していく。それでも適応できない生徒には、外部機関や家庭とも連携しながら生徒の学びを保証していくことが大切だと思いました。

今日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは「島根県雲南市の NPO と組んだ実践」です。

不登校問題を正面から語り合う機会は、あるようでない。この問題は、各人の教育観、学校観、子ども観とも関わるので難しい問題である。個別の問題ばかりが取り上げられる傾向が強い。それだけに、雲南市での取組みも含めて、もう少し大きな観点から考え合う貴重な機会となった。

今日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは「不登校児童生徒の様々な支援方法」です。

まず、不登校児童生徒の背景にあるものについて、「給食が食べられない」「親の方針」等の私自身では思いつかなかったことを学ぶことができました。グループ内でのシェアでは各地区での取組を知り、全体でも不登校に対する困り感を知ることができました。

また、教育支援センターをはじめ、フリースクールや NPO 法人等の様々な場所での児童生徒の居場所づくりや学習保障がされている現在、今後はより多様化する支援体制が出てくるのではないかと感じました。

そして、公設民営による教育支援センターの先進事例として、雲南市教育支援センターについて学ぶことができました。教育委員会と認定 NPO 法人カタリバの連携・協働により運営している、今までにない斬新な考え方に驚きました。一つの例として、不登校児童生徒の将来に向かった取組だと思いました。

今後、不登校児童生徒に対しての支援を学校関係のみでなく、社会全体として取り組んでいく姿勢が必要であると感じました。最後に、私自身が教師としてできること、それは児童生徒の状況を様々な視点で考え、一人で抱え込まず、SCやSSWも含めたチーム学校で対応していくことを忘れずに、頑張っていきたいと思いました。